



# 2018年10月期 第3四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Sep.14<sup>th</sup>.2018



# CONTENTS

## 1 2018年10月期 3Q決算の概況

---

- 業績のポイント
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因

## 2 2018年10月期 業績見通し

---

- 見通しサマリー
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費
- 中期経営計画主要施策の進捗
- 来期以降の状況と課題

# 2018年10月期 3Q決算の概況

**光学機器用レンズ材や半導体露光装置向け高均質ガラスの販売増などにより、前年同期比増収増益**

## 光事業

- デジタルカメラ市場は、コンパクトタイプの需要減少が続いたものの、レンズ交換式タイプではミラーレスタイプの需要が伸長
- 売上高は、新製品やレンズ加工品の販売に努め、車載カメラや監視カメラ向けレンズ材などの販売も増加したことから、前年同期比増収
- 損益は、原料価格の上昇や労務費の増加が見られたものの、生産性の改善に努めたことなどにより営業増益

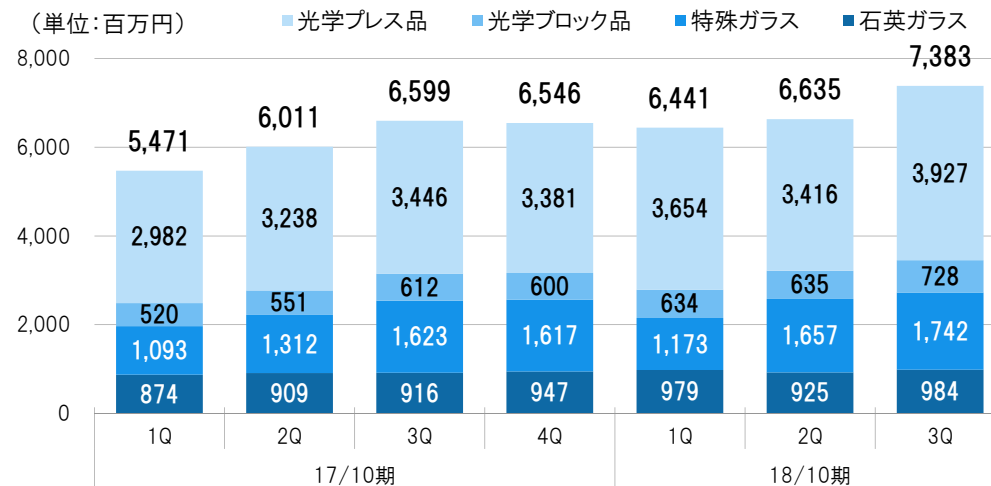
## エレクトロニクス事業

- 露光装置市場は、FPD向けの一部で弱めの動きが見られたものの、半導体向けは堅調を維持
- 売上高は、極低膨張ガラスセラミックスの販売が減少したものの、高均質ガラスの販売が増加したほか、耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム™」の販売が進展したことなどから、前年同期比増収
- 損益は、製品構成が変化する中、生産性の改善に努めたことなどから営業増益

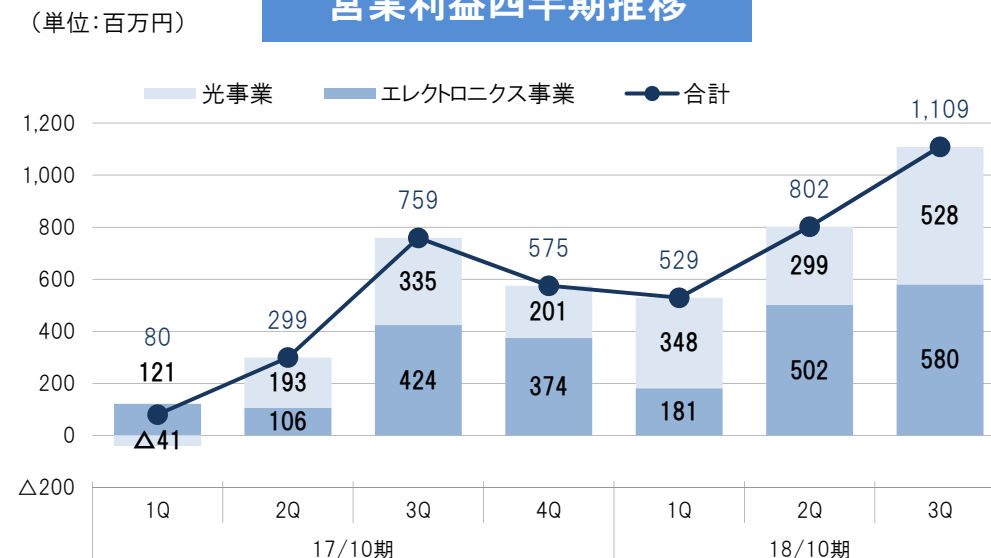
(単位:百万円、%)

	17/10期 3Q累計	18/10期 3Q累計	増減 増減率
売上高	18,082	20,461	2,378 13.2%
営業利益	1,139	2,441	1,301
[営業利益率]	6.3%	11.9%	114.2%
経常利益	1,546	2,702	1,155
[経常利益率]	8.6%	13.2%	74.7%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,260	2,423	1,162
[純利益率]	7.0%	11.8%	92.3%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 112.32 122.05	期中平均 109.96 131.74	

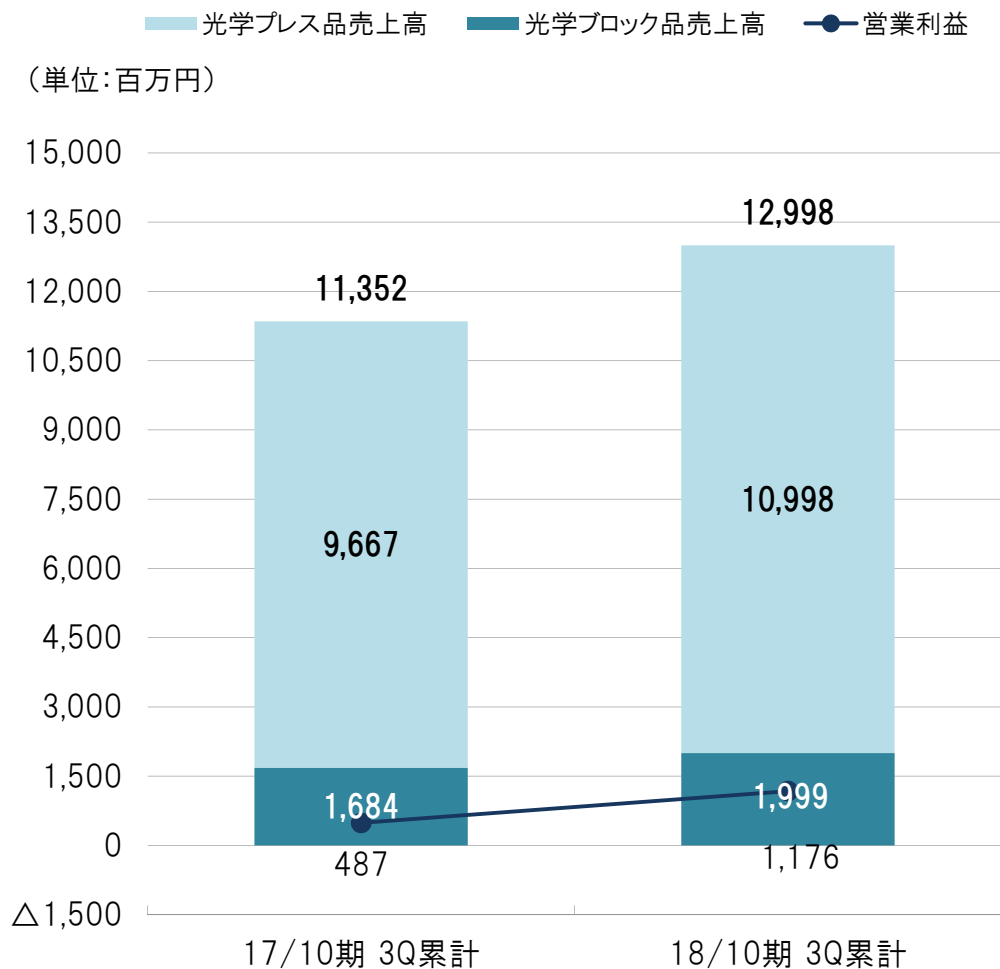
## 売上高四半期推移



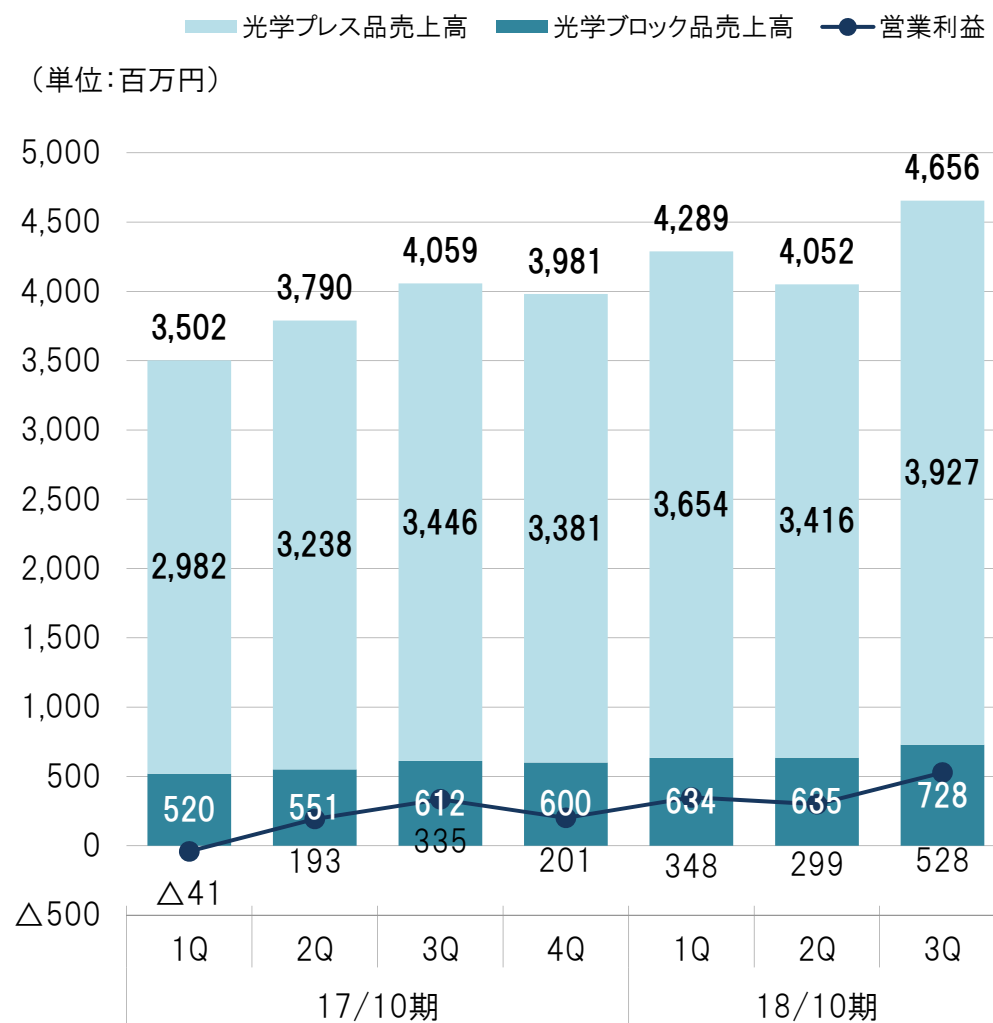
## 営業利益四半期推移



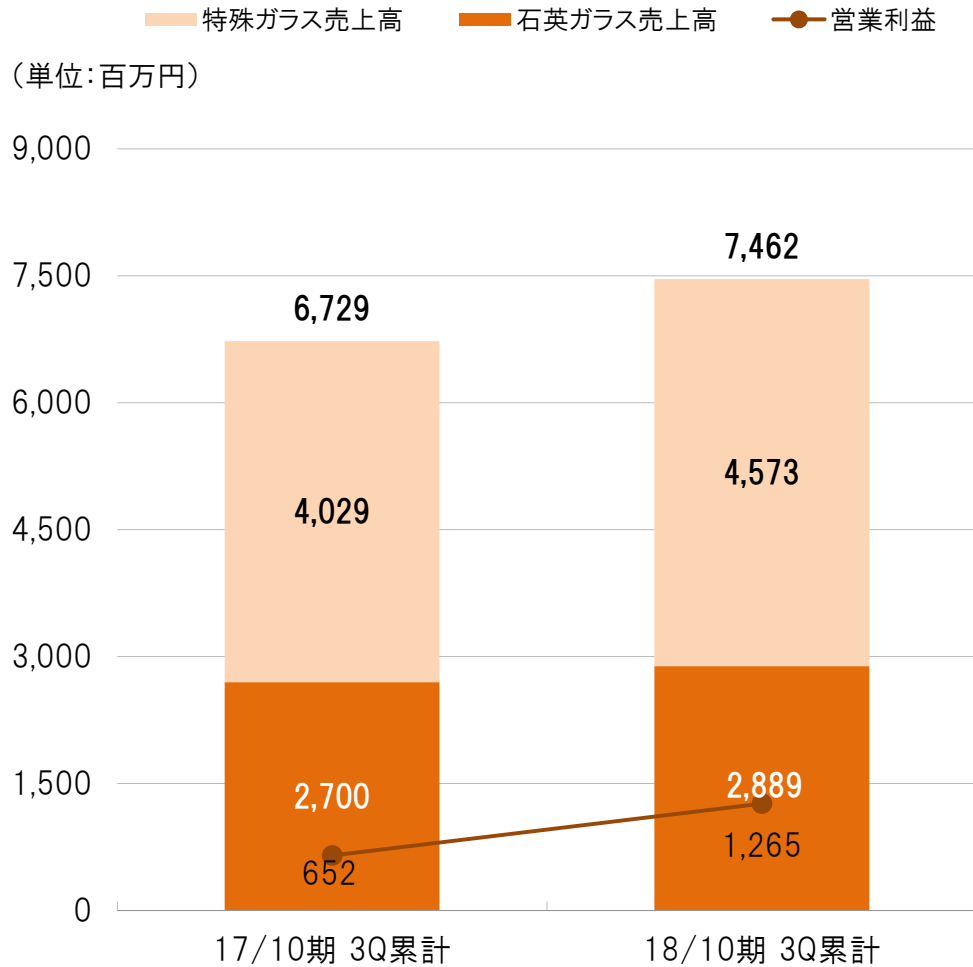
## 3Q累計対比



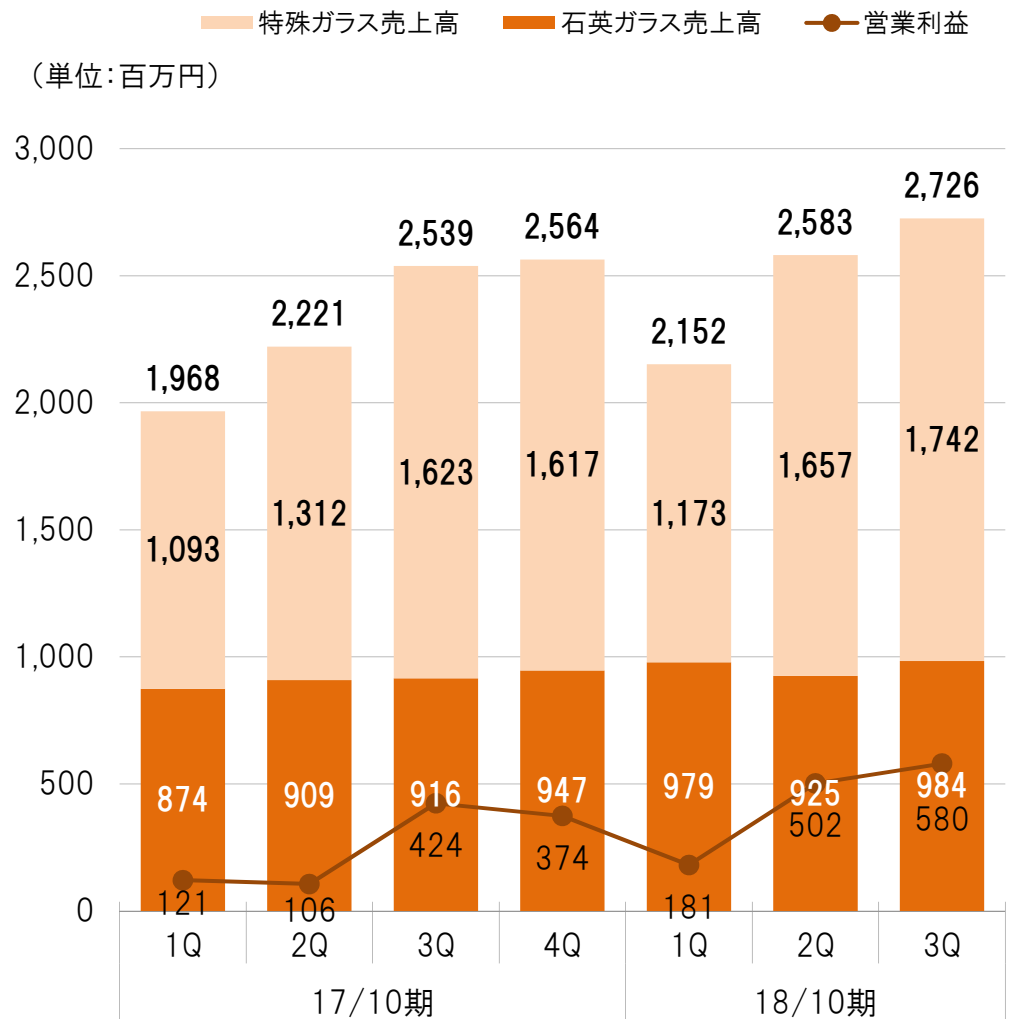
## 四半期推移



## 3Q累計対比



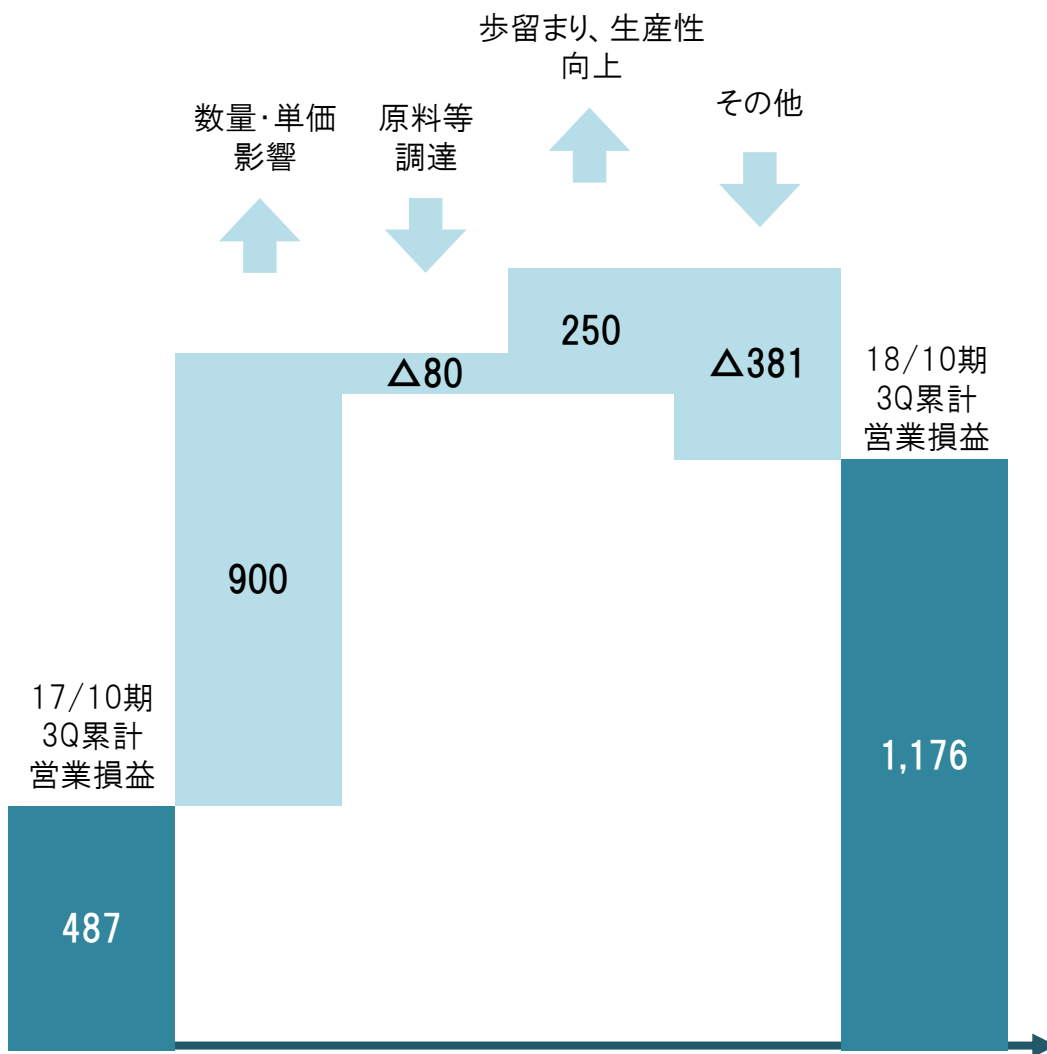
## 四半期推移



# 営業損益増減要因

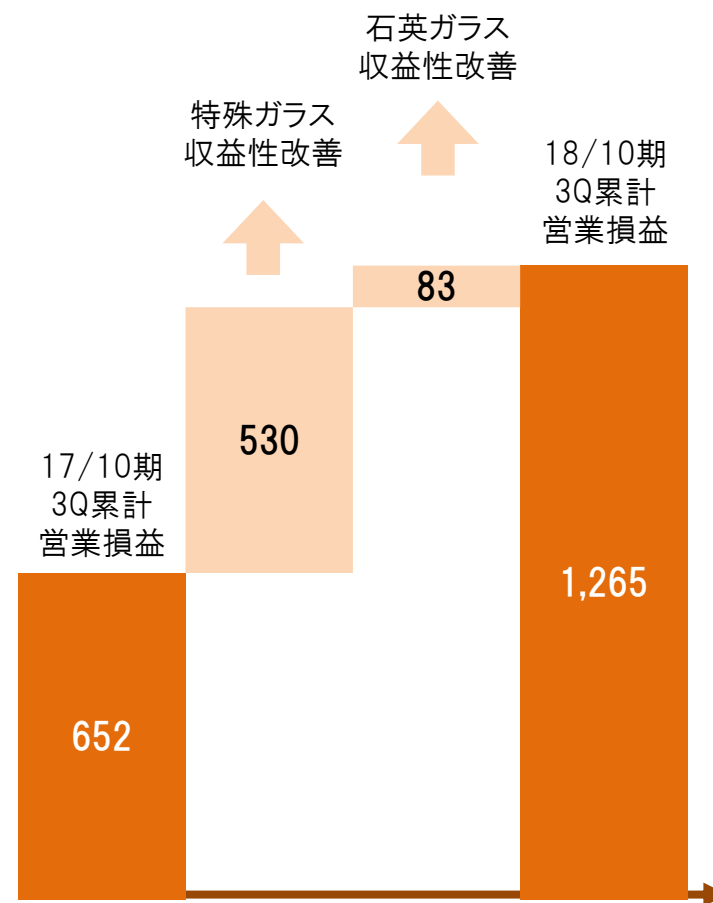
## 光事業

(単位:百万円)



## エレクトロニクス事業

(単位:百万円)





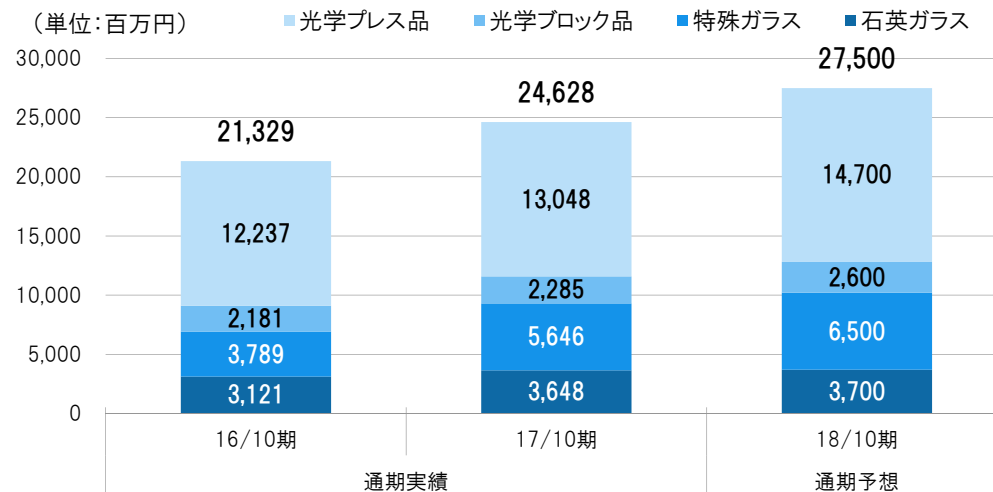
# 2018年10月期 業績見通し

# 見通しサマリー(9月14日修正)

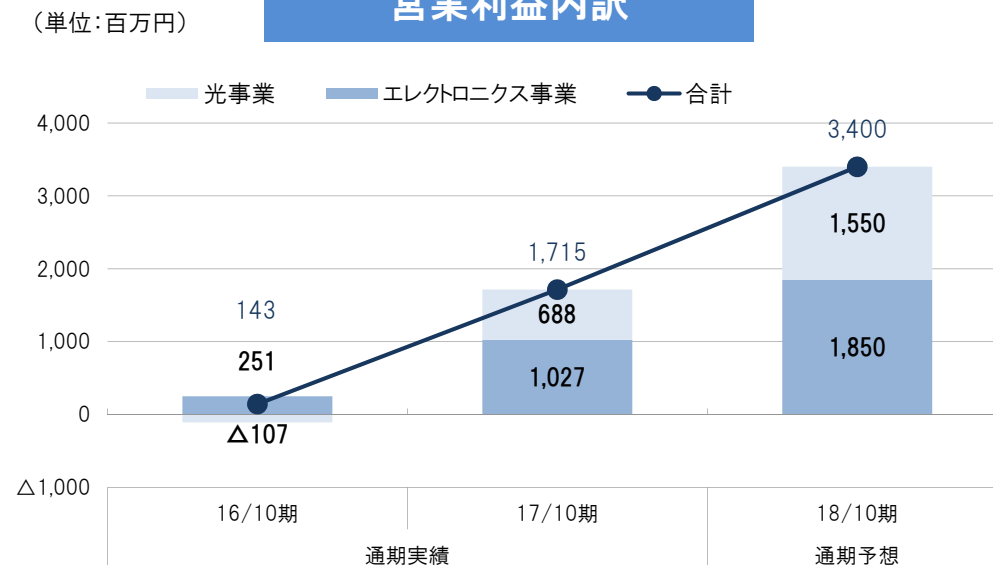
(単位:百万円、%)

	17/10期 通期実績	18/10期 通期予想	増減 増減率	18/10期 前回予想
売上高	24,628	27,500	2,871 11.7%	26,200
営業利益	1,715	3,400	1,684	2,700
[営業利益率]	7.0%	12.4%	98.2%	10.3%
経常利益	2,242	3,800	1,557	2,900
[経常利益率]	9.1%	13.8%	69.5%	11.1%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,513	3,200	1,686	2,400
[純利益率]	6.1%	11.6%	111.4%	9.2%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 112.04 124.46	期中平均 110.00 120.00		期中平均 110.00 120.00
年間配当金 (円)	20.00	30.00		30.00

## 売上高内訳



## 営業利益内訳



## ハイエンド光学機器向け新製品やレンズ加工品の拡販で、新たな光学ガラスの需要を取り込む

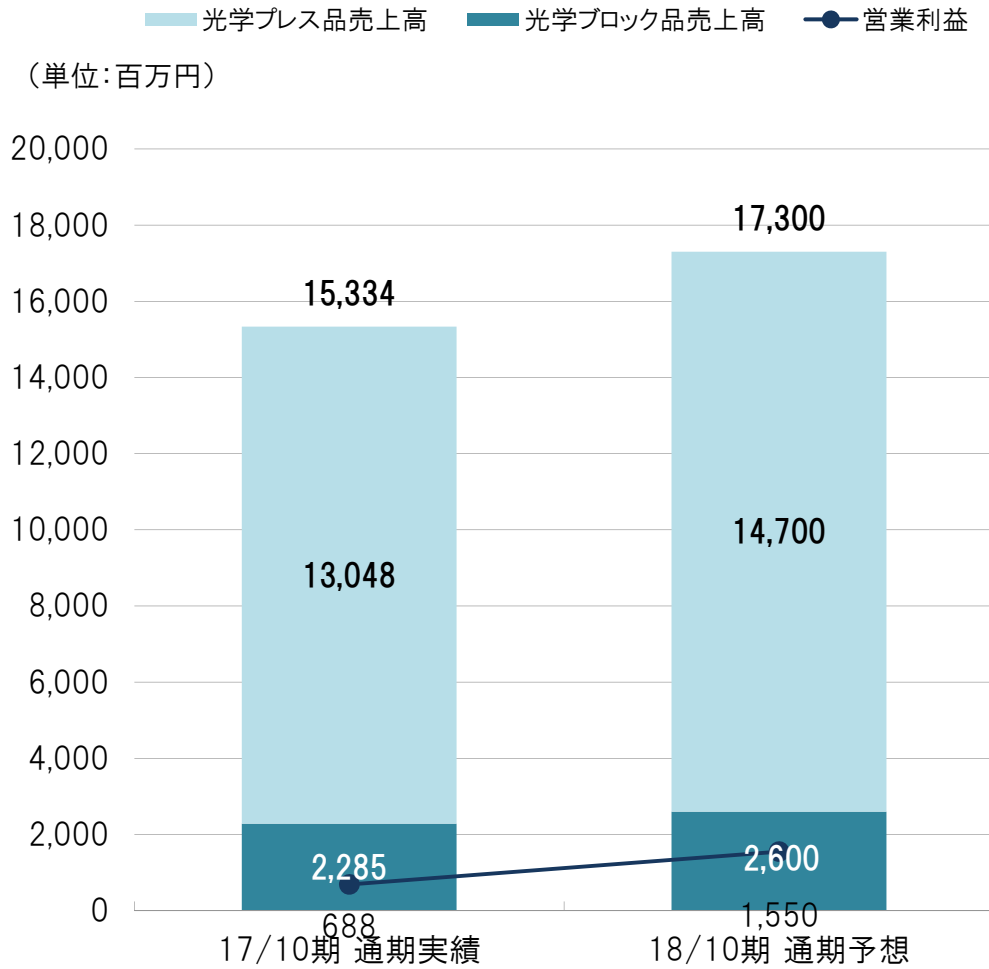
### 事業環境

- デジタルカメラ市場は、ミラーレス機などの需要増により堅調に推移
- プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、技術革新に伴い高品質な光学ガラスの需要が拡大

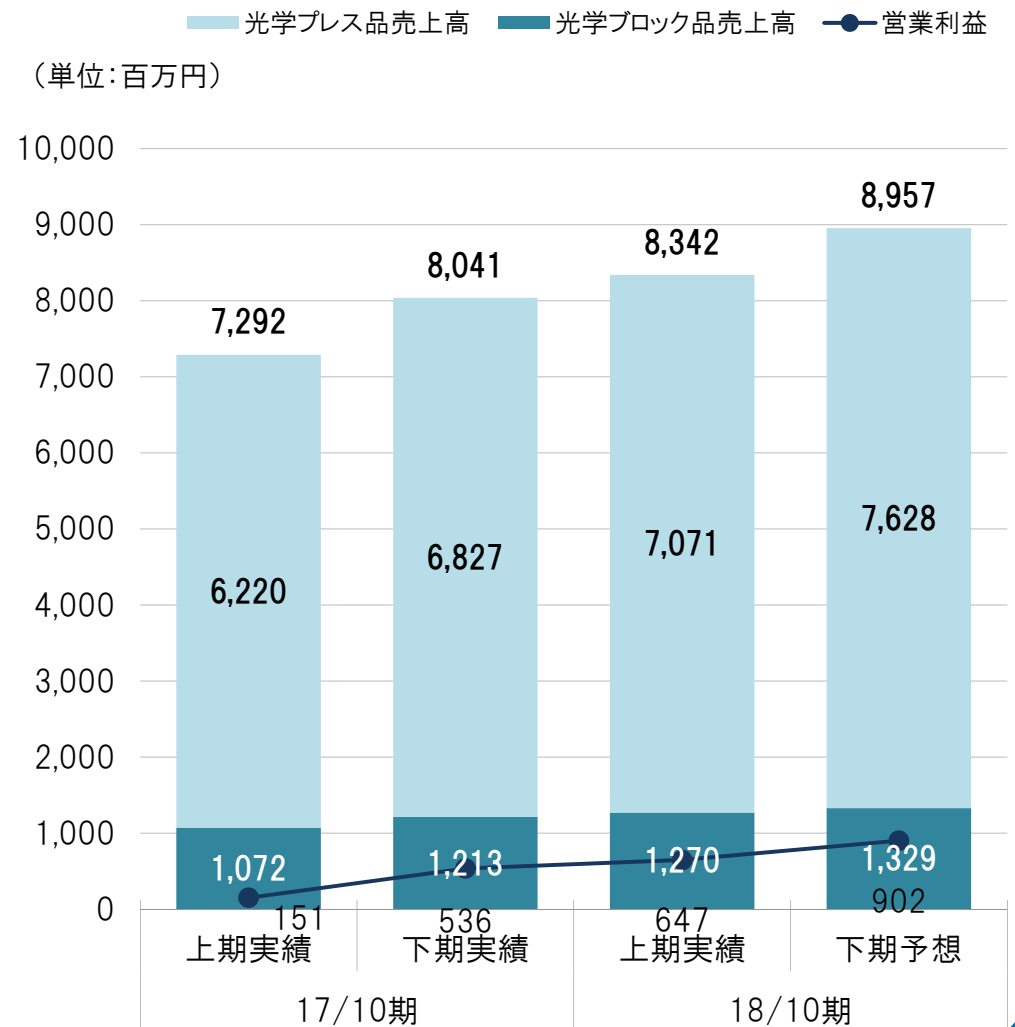
### 当社状況

- 高輝度・高精細プロジェクター、車載センシングカメラなどのハイエンド光学機器向けの新製品をタイムリーに開発、拡販を目指す
- ガラスモールドレンズの供給体制を構築し、レンズ加工品の販売比率を高めることで、光学ガラスの拡販と、利益率の向上を目指す

## 通期対比



## 半期推移



## FPD露光装置向け及び光通信機器向けは調整の一方、「ナノセラム™」の販売が進展

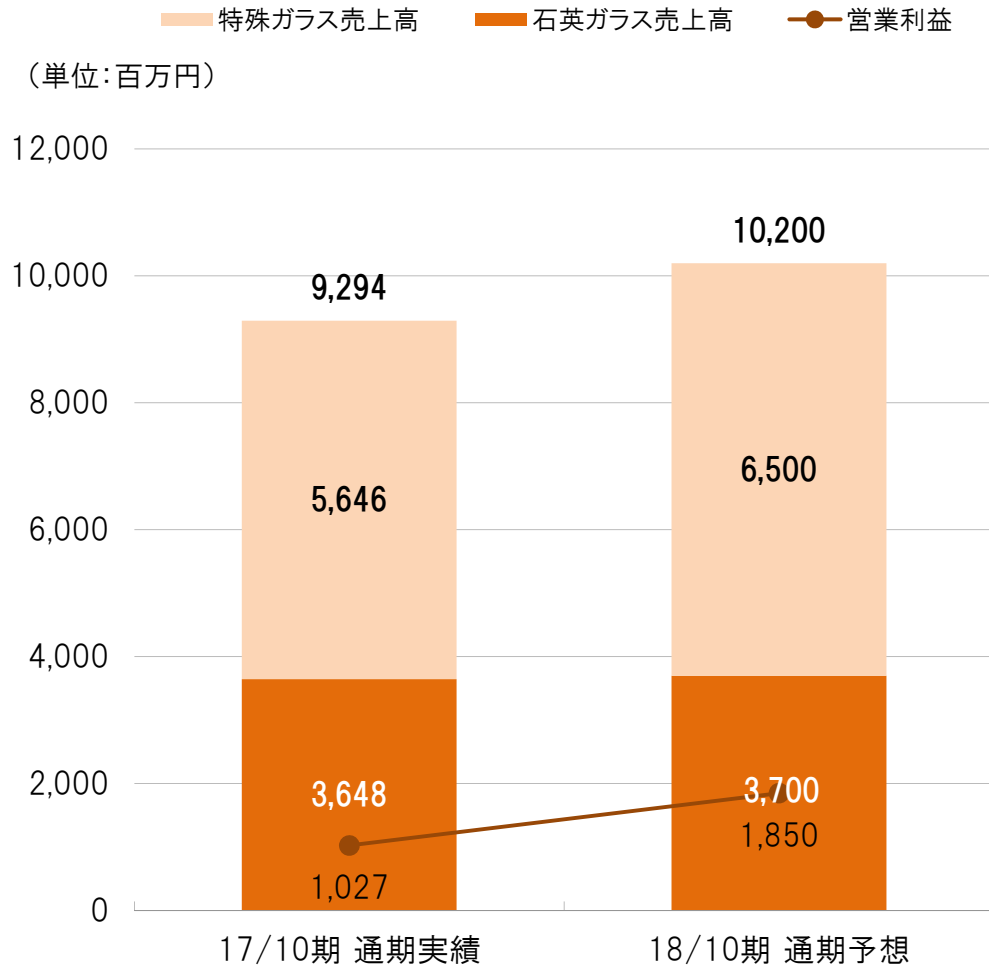
### 事業環境

- FPD露光装置は一部で在庫調整局面が続く一方、半導体露光装置及び光通信関連機器は堅調を維持する見込み
- 宇宙関連産業は拡大する見込み

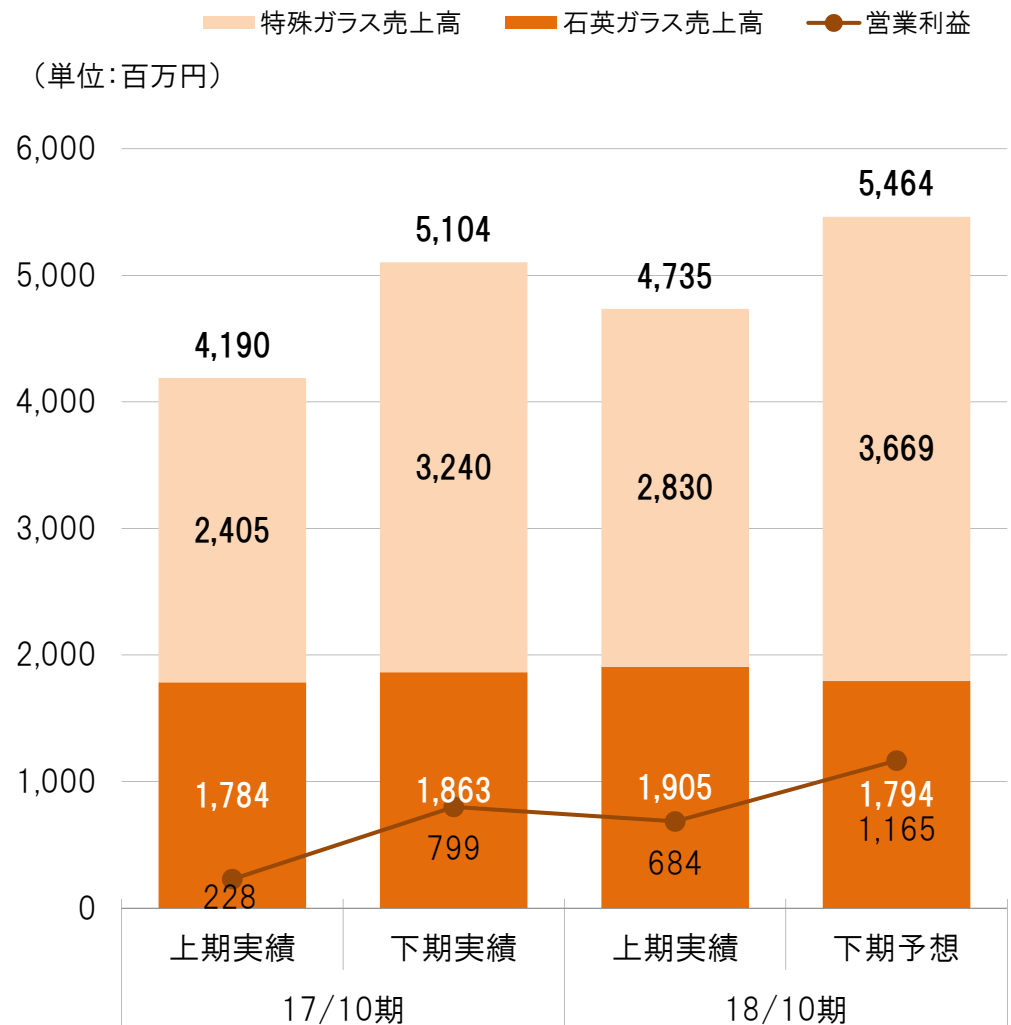
### 当社状況

- FPD露光装置向け極低膨張ガラスセラミックスや光通信機器向けガラス素材は在庫調整の影響を受ける一方、半導体露光装置向け高均質ガラスは好調
- 「ナノセラム™」はスマートフォン向けサプライチェーンの確立に注力
- 「LICGC™」は、液系リチウムイオン電池向け添加材などの事業開発を加速

## 通期対比

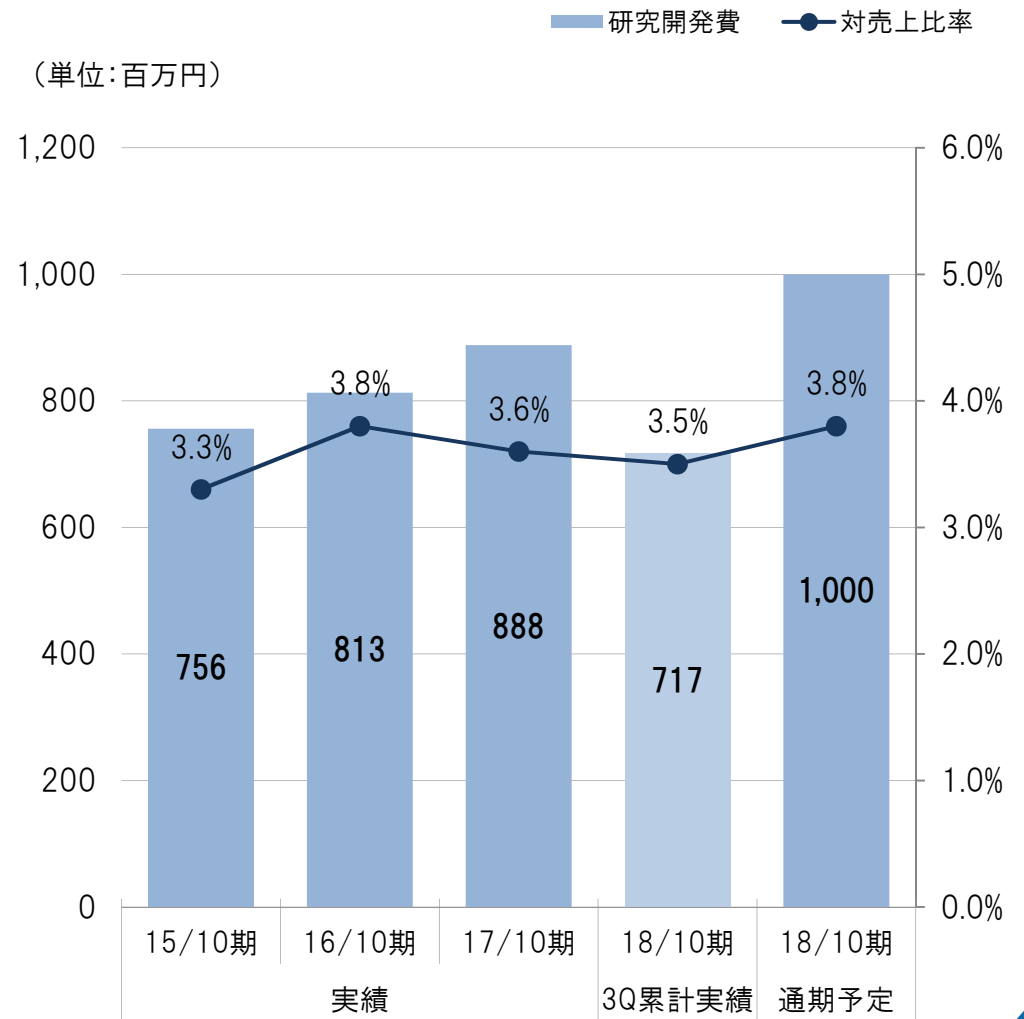
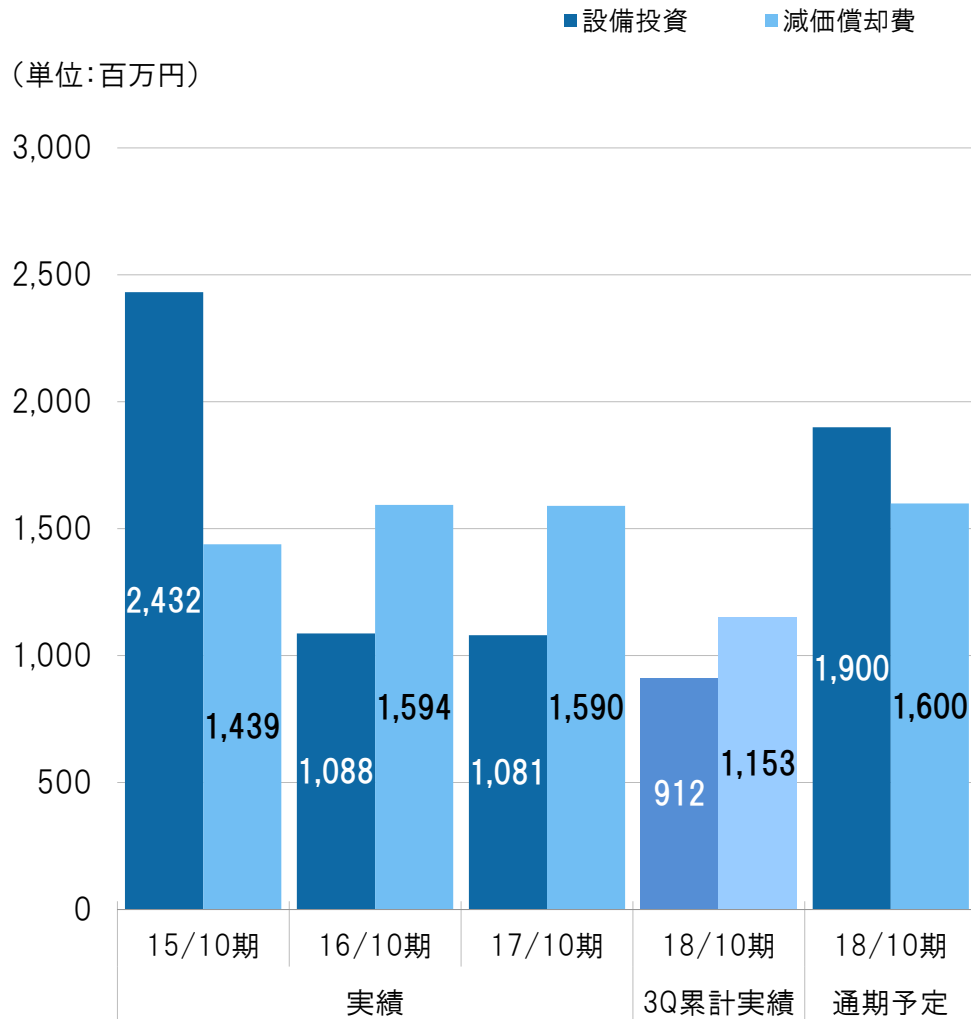


## 半期推移



## 設備投資、減価償却費

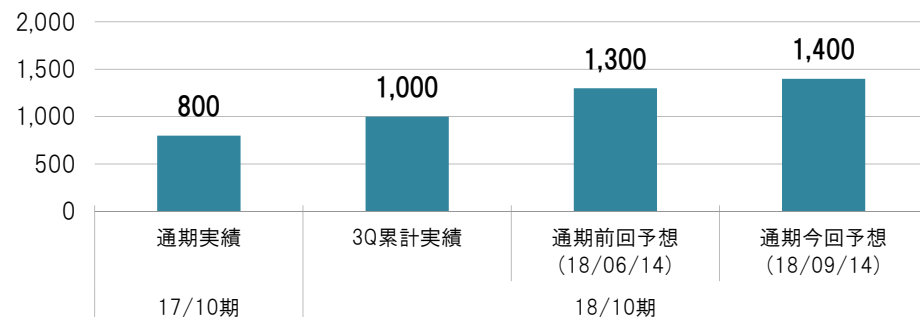
## 研究開発費



## 光事業

### 光学ガラス新製品の売上高目標

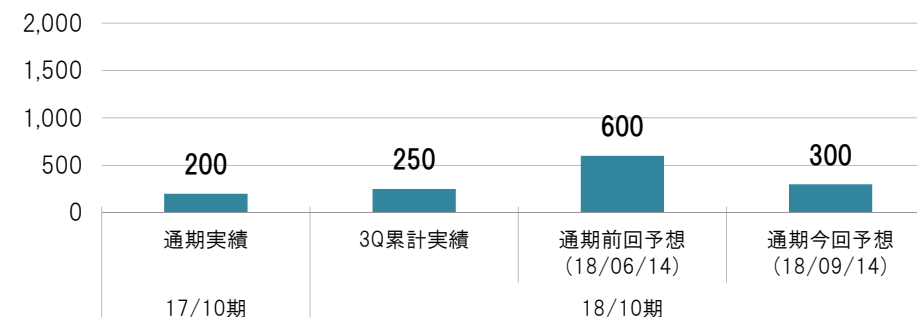
(単位:百万円)



※車載カメラ向け以外の新製品も含む

### GMo (ガラスモールドオプティクス) の売上高目標

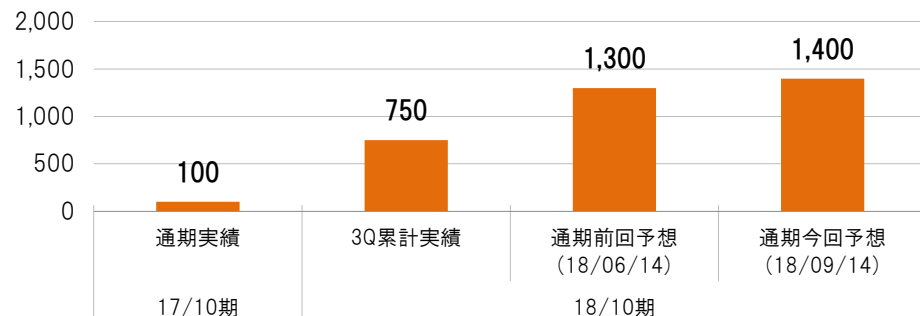
(単位:百万円)



## エレクトロニクス事業

### ナノセラム™の売上高目標

(単位:百万円)



- 光学ガラス新製品売上高は順調に増加、今期は7種リリース、うち3種が車載カメラ向け
- GMoは、現行案件の生産変動により需要減少、新工場稼働に向けた案件数の拡大が課題
- ナノセラム™は、2Qに引き続きスマートフォン筐体向けの量産試作中



## 全社戦略

- MMB (Mobile Mobility Battery) 推進プロジェクトによるマーケティング機能の強化を引き続き実施。  
18/10期は、現有テーマ中心に取り組み、特にナノセラム™で成果。19/10期は更なる加速を目指す

## 光事業

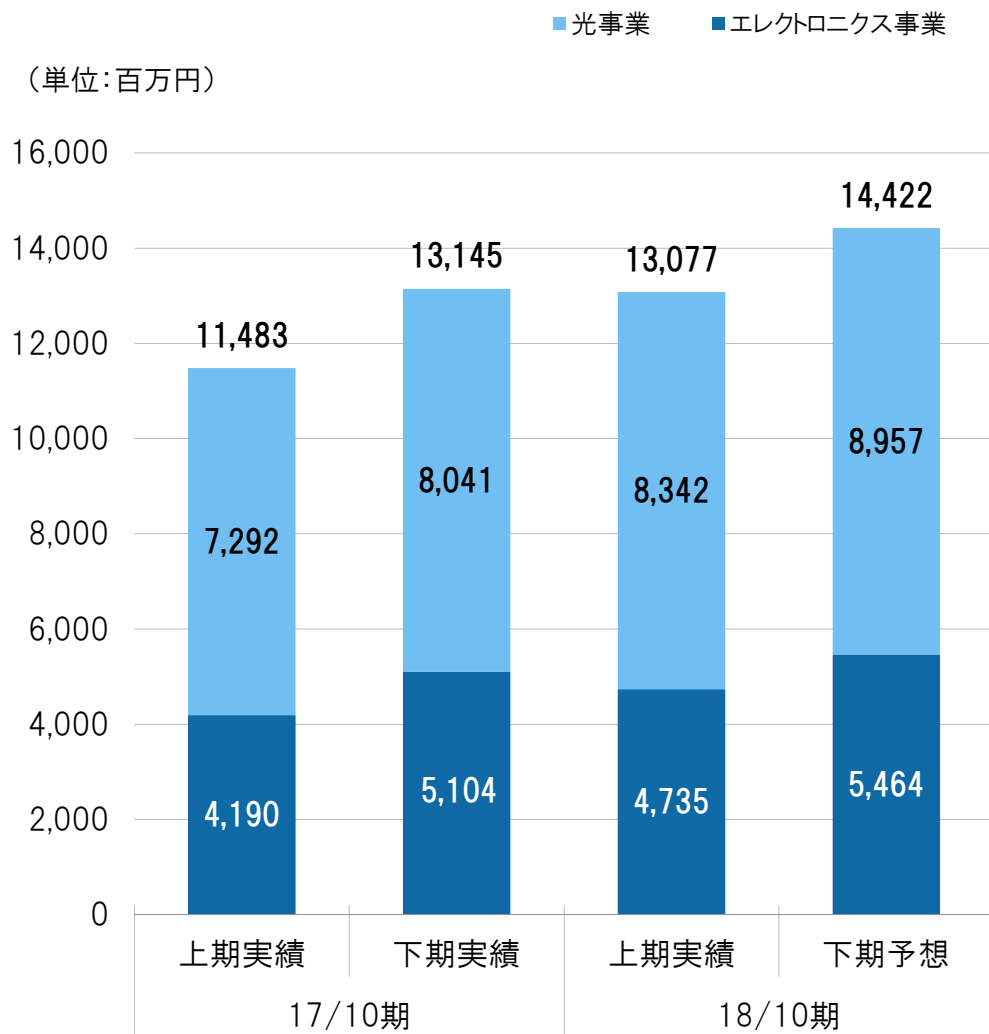
- デジタルカメラ市場は、ミラーレス機などの需要増により堅調に推移
- 18/10期は、新製品及びレンズ加工品の拡販戦略が奏功、19/10期も引き続き注力。  
一方、GMO (ガラスモールドオプティクス) は、工場新設により償却負担が増加する中、安定需要の確保に注力

## エレクトロニクス事業

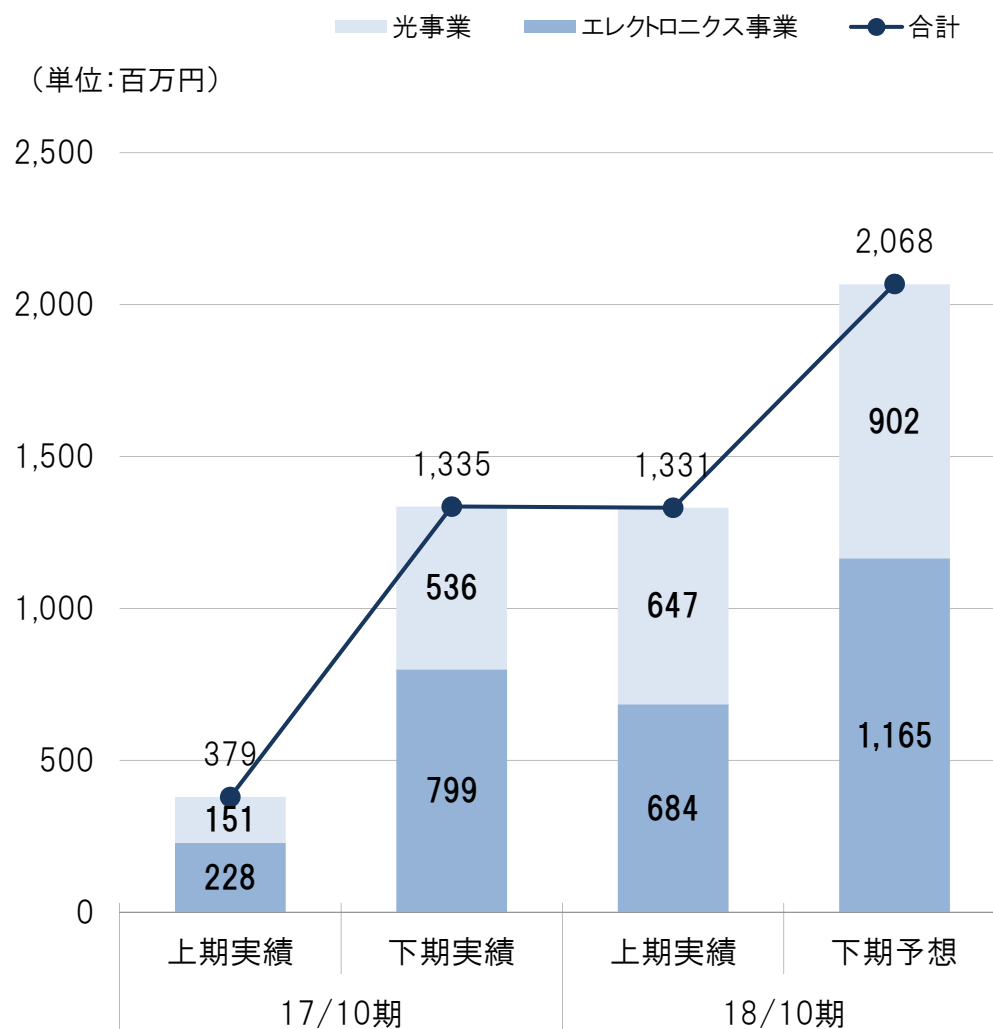
- 特殊ガラスは、FPD露光装置向け極低膨張ガラスセラミックス及び光通信機器向けガラス素材の調整が続く一方、半導体露光装置向け高均質ガラスは堅調、ナノセラム™はスマートフォン実機向けの安定需要確保を目指す
- 石英ガラスは、FPD露光装置向けの調整が続く一方、半導体フォトマスク及び液晶プロジェクター向けは堅調、高水準の稼働が続く中、製品構成の最適化を図っていく

## Appendix(参考資料)

## 売上高



## 営業利益



# 18/10期業績予想修正のまとめ

## 通期業績予想

(単位:百万円、%)

	前回予想 (18/06/14)	今回予想 (18/09/14)	増減額	増減率
売上高	26,200	27,500	1,300	5.0
光事業	16,700	17,300	600	3.6
光学プレス品	14,200	14,700	500	3.5
光学ブロック品	2,500	2,600	100	4.0
エレクトロニクス事業	9,500	10,200	700	7.4
特殊ガラス	5,900	6,500	600	10.2
石英ガラス	3,600	3,700	100	2.8
営業利益	2,700	3,400	700	25.9
光事業	1,300	1,550	250	19.2
エレクトロニクス事業	1,400	1,850	450	32.1
経常利益	2,900	3,800	900	31.0
純利益(親会社株主に帰属)	2,400	3,200	800	33.3
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 110.00 120.00	期中平均 110.00 120.00		
年間配当金(円)	30.00	30.00		

## 四半期推移

(単位:百万円)

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q予想
売上高	6,441	6,635	7,383	7,038
光事業	4,289	4,052	4,656	4,301
光学プレス品	3,654	3,416	3,927	3,701
光学ブロック品	634	635	728	600
エレクトロニクス事業	2,152	2,583	2,726	2,737
特殊ガラス	1,173	1,657	1,742	1,926
石英ガラス	979	925	984	810
営業利益	529	802	1,109	958
光事業	348	299	528	373
エレクトロニクス事業	181	502	580	584
経常利益	540	935	1,226	1,097
純利益(親会社株主に帰属)	432	1,005	984	776

商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）  
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30  
 創立：1935年(昭和10年)10月1日  
 資本金：58億5千5百万円  
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売  
 従業員：連結1,731名(単体409名) (2017年10月31日時点)  
 発行済株式総数：25,450,000株  
 株主数：9,401名 (2018年4月30日時点)



代表取締役社長執行役員  
齋藤弘和

## 役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	関戸 仁	生産、技術 管掌
取締役常務執行役員	中島 隆	財務、管理 管掌 兼 管理センター長
取締役常務執行役員	青木 哲也	営業、マーケティング、知的財産 管掌
取締役(社外)	大熊 右泰	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	小泉 達也	
取締役(社外)	内田 省寿	
常勤監査役	久保田 桂詞	
監査役(社外)	三上 誠一	
監査役(社外)	長島 和彦	
監査役(社外)	杉田 光義	

## 大株主

(2018年4月30日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーホールディングス(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.3%
4	三光起業(株)	1,638	6.7%
5	(株)トプコン	673	2.8%
6	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
7	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	544	2.2%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW (常任代理人:(株)みずほ銀行決済営業部)	212	0.9%
10	(株)SBI証券	156	0.6%

※持株比率は、自己株式1,124千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

中国  
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本  
(株)オハラ 足柄光学(株)



(株)オハラ・クオーツ (株)オーピーシー



米国  
Ohara Corporation



ドイツ  
OHARA GmbH



香港  
小原光學(香港)有限公司



マレーシア  
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾  
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司

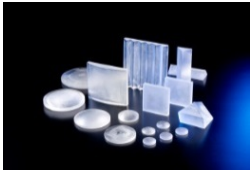


- 1935 10月: 小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月: 光学ガラス熔解開始
- 1944 2月: 株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月: 白金坩堝熔解開始
- 1958 4月: ランタンガラス生産開始
- 1961 1月: 連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月: 足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月: オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月: 低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月: Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月: オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月: ステッパー用ハイホモガラス( $\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$ )量産開始
- 1984 3月: 高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月: 株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月: 台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月: 紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始  
5月: 有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月: 結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月: OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月: 環境対策光学ガラス生産開始  
11月: OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月: ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月: 光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月: ISO9001認証取得
- 1999 1月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月: 低光弾性ガラス生産開始  
4月: ISO14001認証取得  
10月: 真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月: 小原光学(香港)有限公司設立  
6月: 大規模連続熔解開始  
12月: 小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月: 東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月: ファ이버用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月: 低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始  
9月: オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月: 株式会社オハラ・クォーツを連結子会社化
- 2011 3月: 華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月: 台湾小原光学材料股份有限公司設立  
8月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCIに搭載
- 2013 5月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月: ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退  
3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月: 非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始  
10月: 創立80周年  
12月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 1月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)、交換レンズ用高級フィルター「WR CERAMIC PROTECTOR」に採用  
8月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月: 世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始  
12月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月: NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加

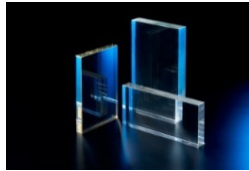
## 光事業

製品カテゴリ

光学プレス品



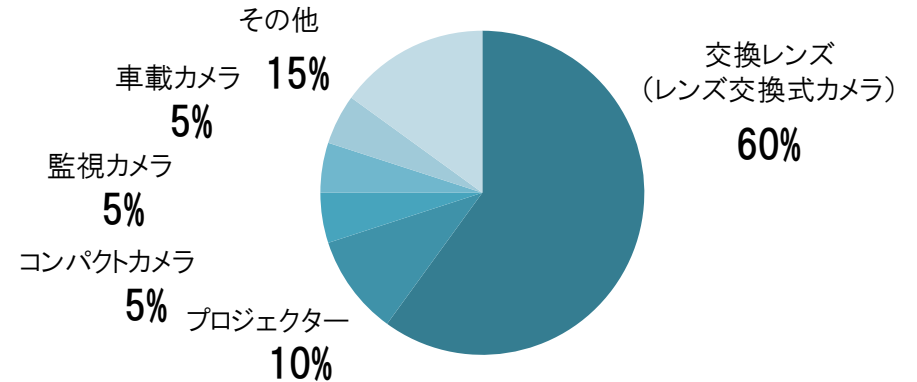
光学ブロック品



※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

## 売上高の用途別比率

※2018年10月期3Q累計(当社想定)

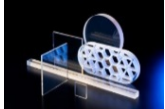


## エレクトロニクス事業

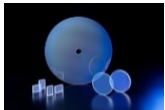
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス  
クリアセラム™-Z



光通信機器向けガラス素材  
WMST™-15



リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス  
LICGCT™



線用高均質性光学ガラス



耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス  
ナノセラム™

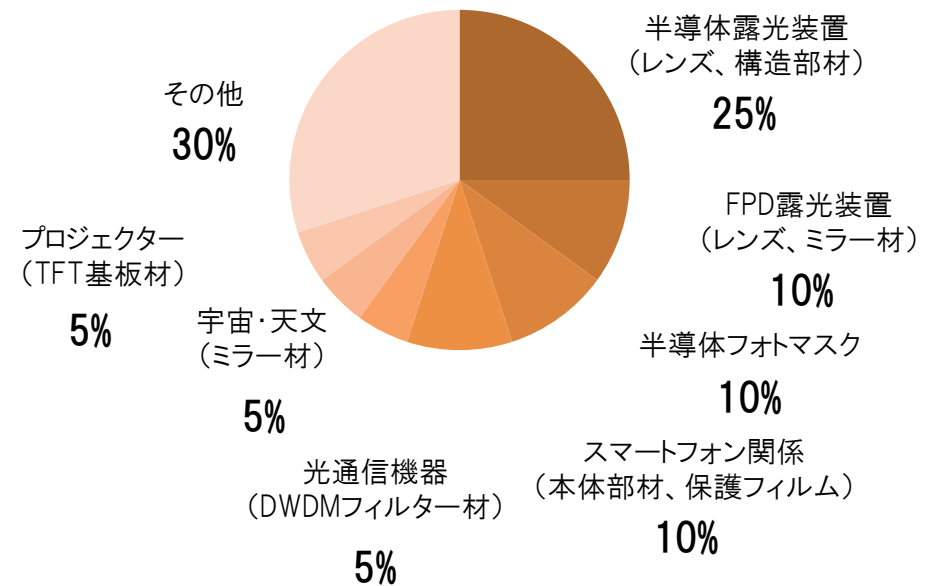


石英ガラス



## 売上高の用途別比率

※2018年10月期3Q累計(当社想定)





# 光学ガラスの代表的な製造工程



# 中期経営計画の目標 (2017年12月14日公表)

	直近実績(17/10期)	目標(20/10期)
売上高	246億円	300億円以上
営業利益	17億円	24億円以上
自己資本利益率(ROE)	3.9%	5.0%以上
総資産有利子負債比率	10.1%	8.0%以下
エレクトロニクス事業 売上高比率	37.7%	40.0%以上

## ※前提条件

米ドル 110 円、ユーロ 120 円

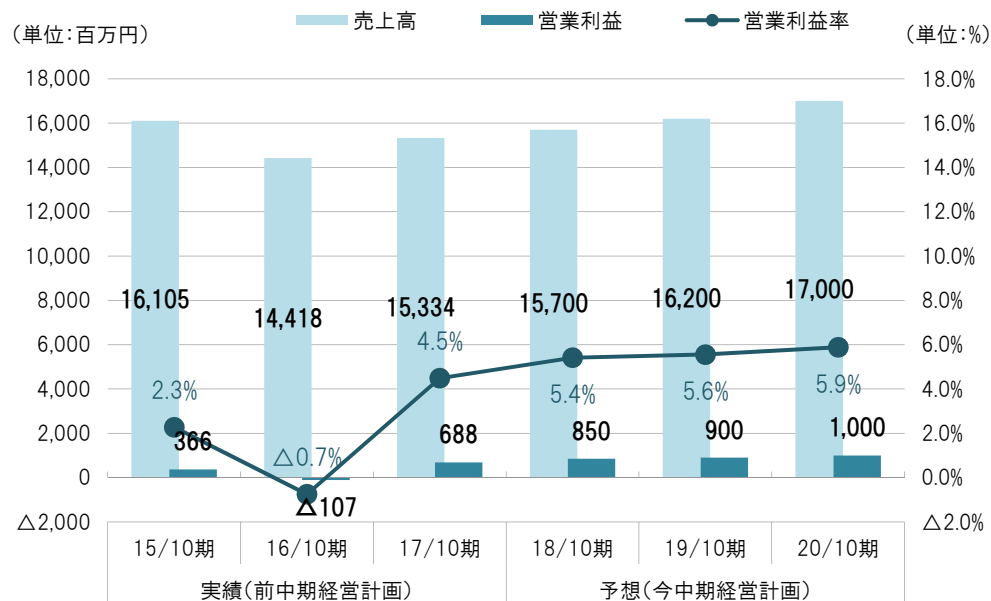
### ■光事業の関連市場

- ・デジタルカメラ市場は、ミラーレス機などの需要増により堅調に推移
- ・プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、技術革新に伴い高品質な光学ガラスの需要が拡大

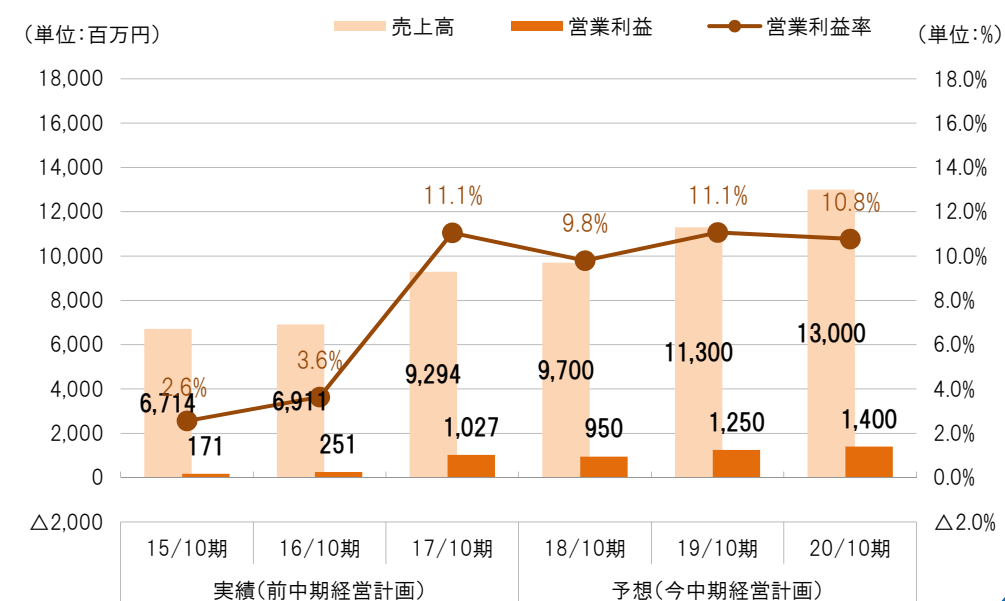
### ■エレクトロニクス事業の関連市場

- ・半導体露光装置、FPD露光装置及び光通信関連機器の需要は引き続き好調に推移
- ・宇宙関連産業も拡大見込み

## 光事業



## エレクトロニクス事業



## 経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

## ビジョンステートメント

われわれは、人と社会の未来創造へ貢献する高い志と変革への実行力を持ち、光とエレクトロニクス、環境・エネルギーの分野において、最高品質の先進素材を世界中に提供することで、お客様とともに技術を革新する「夢実現企業」となる。

## 中期経営計画のキーコンセプト

再成長軌道への回帰

### マテリアル + ソリューションのオハラ

ガラスを**熔解**する会社からお客様の困り事を**熔**かして**解決**する会社へ

モバイル・モビリティ市場への貢献

観る

真のニーズの探索  
変化を感じる感性

解決する

提案力の強化  
素材の良さを形にして見せる  
サプライチェーンの巻き込み

導く

成果を上げるリーダーシップ  
事業化スピードUP



- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。